



探究学習への進化に役立つ

BOOK GUIDE

知識ベースから資質・能力ベースの学びへと学力観、学習観の転換が図られている今。そもそも資質・能力とは？ なぜ今必要なのか？ 探究的な学びとは何か？ といった基本的な問いから、具体的な方法論のヒント、授業で使えるテキストまで。明日からの授業作りに役立つ書籍をご紹介します。

Category 1



探究とは何か

主体的・対話的で深い学び 問題解決学習入門

藤井千春／学芸みらい社

著者の考える「主体的な学び」とは「探究すること」すなわち自らの問いを自らの頭で考える活動である。絶対確実な方法がなく、柔軟に対応する必要のある学び。これを支援する教師のスキルやスタンスを、具体的な場面に即して解説している。単元の構想や生徒の学びを見取る方法、授業研究など、教師の専門性を伸ばす道筋も示している。

深い学び

田村 学／東洋館出版社

「『深い学び』とは、『知識・技能』が関連づいて構造化されたり、身体化されたりして高度化し、駆動する状態に向かうこと」と著者は説く。そのためには習得・活用・探究のバランスのとれた単元構成が必要として、深い学びを実現するための授業デザインのあり方を解説している。探究を意識した教科の授業作りの参考に。



「資質・能力」と 学びのメカニズム

奈須正裕／東洋館出版社

資質・能力を基盤とした学びをいかに作るか。新学習指導要領のキーとなる概念を、実例を交えながら理論的に解説した一冊。見返しには「子供を優れた問題解決者にするために、教師はそれを生きて働くものとする」という一文が引用されているが、そのような授業を実現するための考え方や方法を知ることができる。

アクティブラーニングとしての PBLと探究的な学習

(アクティブラーニング・シリーズ)

溝上慎一、成田秀夫／東信堂

第1章はアクティブ・ラーニングとPBL (Project Based Learning) の関係や、問題解決型学習 (Problem Based Learning) との違いなどを解説する理論編。第2章以降では、教師による高校や大学での実践事例を紹介。ワークシートやルーブリックの例も示されている。

Category 2



良質な問いを立てる

たった一つを変えるだけ

クラスも教師も自立する「質問づくり」

ダン・ロスタイン、ルース・サンタナ／新評論

教師の発問ではなく、生徒自身が質問を作ることによって主体的・自立的に学びに向かうようになる。経験から導かれた質問づくりの7つのステップや、教科での事例、教員に向けたアドバイスが書かれている。ステップには質問を作るだけでなく、優先順位をつけること、質問を使って何をするか考えること、そしてふりかえりまでが含まれている。



未来を変える目標

SDGsアイデアブック

一般社団法人Think the Earth／紀伊國屋書店

課題解決型の授業において、テーマが表層的でありきたりになる、社会課題との関連性が弱いという悩みをもつ先生にお勧め。SDGs各目標の解説には問題を掘り下げるための「考えてみよう」という問いかけのコーナーや、実際に社会課題を解決したプロジェクトの紹介も。短く平易な文章、豊富な写真や漫画を使いSDGsを身近な事柄に結びつけやすく編集されている。

体験の言語化

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター／成文堂

日々の生活やこれまでの体験を、社会課題や学問と結びつけ、オリジナルな問いを立てるにはどうすればよいか。また、体験をメタ認知し言葉にするためには何が必要か。第3部で紹介されている授業内容や、続編の『体験の言語化 実践ガイドブック』は、課題探究型学習で生徒が問いを立てる方法や、学習の課程をふりかえる力を付けようとする際に参考になる。

文／江森真矢子 撮影／下鳥 誠



Category 3



カリキュラム&授業デザインを研究する

カリキュラム・マネジメント入門

「深い学び」の授業デザイン。
学びをつなぐ7つのミッション。

田村 学／東洋館出版社

総合的な学習の時間を軸として、主体的・対話的で深い学びを構築するためのカリキュラムデザインの入門書。キーワードは「つなぐ」。小学校での実践事例を基に編まれているが「体験と言語をつなぐ」「教科をつなぐ」「人をつなぐ」など、個別の授業から組織のあり方まで具体的な方法論を知ることができる。



「学びの責任」は誰にあるのか

「責任の移行モデル」で授業が変わる

ダグラス・フィッシャー、ナンシー・フレイ／新評論

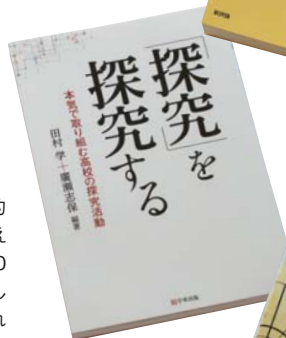
責任の移行モデルは①教師による「焦点を絞った指導」、②教師はサポートをする「教師がガイドする指導」、③生徒たちが協力しながら行う「協働学習」、④生徒の「個別学習」という段階を踏むことで、問いを深めて生徒が学びを自らのものにしていくモデル。実践例も紹介されており、教科における探究学習のあり方を模索する先生に勧めたい。

「探究」を探究する

本気で取り組む高校の探究活動

田村 学、廣瀬志保／学事出版

『月刊高校教育』で連載されてきた、総合的な学習の時間の実践事例集。これに加えて、高校での探究を考えるための解説、50校超の高校を取材するなかで著者が見出した「探究を深めるエッセンス」などが収録されている。豊富な具体例からは、総合的な学習の時間をどう組み立て、運営していくかのヒントを得ることができる。



教科と総合学習の カリキュラム設計

パフォーマンス評価をどう活かすか

西岡加名恵／図書文化社

学習者自身が答えのない問いについて探究する機会を与えらるとともに、そのような機会にも使いこなせるような各教科の本質的な知識やスキルを深く学ぶカリキュラムをいかに作るか。全体の設計とともに、パフォーマンス課題やポートフォリオなど、評価設計に役立つ事例紹介や解説がなされている。

Category 4



授業で使えるツール&テキスト

学びの技

14歳からの探究・論文・プレゼンテーション

後藤芳文、伊藤史織、登本洋子／玉川大学出版部

探究学習の際に必要なテーマ設定、情報収集、論の組み立て、ポスター発表や論文作成などに使う「技」がコンパクトに解説された1冊。玉川学園中高での実践(23ページ参照)を基に作られており、ワークシートや参考になる図書、URLも紹介されている。生徒向けに書かれているので、テキストとしても使いやすい。



課題研究メソッド

よりよい探究活動のために

岡本尚也／啓林館

課題研究のプロセスを順に追いつながりながら解説する、高校生向けのテキスト。方法論を示すだけでなく、活動時のチェックリストや検索、統計の基礎などの註釈が豊富。加えて各分野の研究者が研究の意義や楽しさを伝えるコラムも用意されている。別冊の『[課題研究メソッド]課題研究ノート』は書き込み式となっており、テキストと合わせて使えるようになっている。



田村学・黒上晴夫の

「深い学び」で生かす思考ツール

田村 学、黒上晴夫／小学館

思考を外化、構造化するために使えるフォーマットである「思考ツール」。著者は使用の際に①一人ひとりがアイデアを出す→②共有して増やす→③アイデアを混ぜる→④一人ひとりが「考え」を作る、というステップを意識することが重要と説く。小学校での実践事例を基に、各教科で深い学びを生み出す方法論が解説されている。